

# 2020年度 アスパラガス病害虫防除暦【露地作型】

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注意事項		
／	1	立茎開始3日前 展着剤(ハイテンパワー) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病・株腐病	<p>茎枯病の多発圃場は、収穫打切後、<u>全刈りを実施し、すぐに第1回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから5cm以上の盛り土後、芽の高さが2～5cm程度のときに2回目の薬剤散布。その後5日以内に3回目、4回目の薬剤を丁寧に散布する。</u></p> <p>アミスター20フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方・曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない。</p>	
／	2	第1回散布後5日以内 展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000	20ml 100ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病		
／	3	第2回散布後5日以内 アミスター20フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病		
／	4	第3回散布後5日以内 展着剤(ハイテンパワー) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	200	アブラムシ類・アザミウマ類 ジュウホシクビガハムシ 茎枯病・株腐病		
／	／	特別散布 疫病対策	フォリオゴールド	疫病対策の特別散布はフォリオゴールドに統一 削除・変更：プロポーズ顆粒水和剤		<p>土壌病害(疫病)が心配される圃場で株元散布する。</p> <p>展着剤(アピオンE)を加用する。</p>		
／	5	6月中下旬 展着剤(ハイテンパワー) コサイド3000 コルト顆粒水和剤	20ml 50g 25g	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 アザミウマ・カミカメ、 (アブラムシ)	<p>春どりのみの場合はコサイド3000をジマンダイセン水和剤(500倍)に変更する。</p> <p><u>※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。</u></p>	
／	6	7月上旬 展着剤(ハイテンパワー) ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	300	アブラムシ類・アザミウマ ジュウホシクビガハムシ・カミシ 茎枯病・株腐病	<p>草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて7～8月はアミノメリット特青500倍の葉面散布を行う。</p> <p>(その場合展着剤不要)</p>	
／	7	7月中旬 展着剤(ハイテンパワー) コサイド3000 コテツフロアブル	20ml 50g 50ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ハダニ類・オオタバコガ ハモンヨウ・(アザミウマ類)・ ジュウホシクビガハムシ・ヨウムシ	<p>コアオカスミカメの発生が多い場合は、ダントツ水溶剤、ウララDF水和剤、コルト顆粒水和剤、のいずれかを散布する。</p>	
／	8	7月下旬 アミスター20フロアブル プレオフロアブル	50ml 100ml	前日 前日	300	オオタバコガ・ハモンヨウ アザミウマ類 茎枯病・斑点病・褐斑病	<p>春どりのみの場合はアミスター20フロアブルを、ジマンダイセン水和剤(500倍)に変更する。</p> <p><u>※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。</u></p>	
／	特別散布 疫病対策		フォリオゴールド	100ml	前日	300	疫病	<p>春どりのみの場合はフォリオゴールド1,000倍(収穫7日前)でも良い。</p>
／	9	8月上旬 展着剤(ハイテンパワー) ディアナSC コサイド3000	20ml 50g 50g	前日 前日	300	オオタバコガ・ハモンヨウ アザミウマ類・コナジラミ類 茎枯病・斑点病・褐斑病	<p>ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤(1000倍)を単剤で散布する。</p>	
／	10	8月下旬 アミスター20フロアブル アディオフロアブル	50ml 66ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ヨウムシ・ハモンヨウ・ (ヒラアザミウマ・アブラムシ類)	<p>薬害回避のため展着剤は入れない。</p>	
／	特別散布 斑点病対策		ラリー水和剤	25g	前日	300	斑点病	<p>展着剤(ハイテンパワー)を加用する。</p>
<p><b>「次年度の収量確保に向けて」9月以降は薬剤散布と併せてPKゴー3,000液を葉面散布(展着剤必要)する。</b></p>								
／	11	9月上中旬 展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000 コテツフロアブル	20ml 100ml 50ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病・ハダニ類・ヨウムシ・ オオタバコガ・ハモンヨウ・ (アザミウマ類)	<p>土壌病害(疫病)が発生している場合は、ダコニールに代えてプロポーズ顆粒水和剤の1500倍を散布する。</p>	
／	12	9月中下旬 展着剤(ハイテンパワー) プレオフロアブル ベンレート水和剤	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	オオタバコガ・ハモンヨウ アザミウマ 茎枯病・株腐病	<p>春どりのみの場合はベンレート水和剤を、ジマンダイセン水和剤(500倍)に変更する。</p> <p><u>※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る。</u></p>	
／	13	10月上中旬 展着剤(アピオンE) ベルコート水和剤	100ml 100g	収穫 7日前	300	茎枯病・斑点病・褐斑病	<p>薬剤持続性を高めるため、展着剤アピオンEを添加する。</p> <p>オオタバコガの発生が多い場合はディアナSCを加用する。</p>	

- (注) 1. バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病等の予防効果があり、毎年発生が多い場合は実施する。  
 2. 収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、モスピラン顆粒水溶剤、ウララDF、アディオフロアブルを散布する。  
 3. 散布間隔があく場合(収穫打切りの早い圃地等)や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド3000の2000倍液を散布する。  
 4. 農家在庫でICボルドー66Dがある場合は最終消毒に使用してもよい。但しPKゴーは混用しない、メリット赤と混用する。  
 5. PKゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。  
 6. 対象病害虫の(発生病害虫)は、アスパラガス以外の品目で対象となっているもの。